

## 令和4年台湾交流(冬の部)・実施報告

窓口担当 山本 剛

◇ 令和元年12月の訪問以後、コロナ禍で渡航制限のため交流が出来なくなっていました。令和4年10月になり日台双方の制限解除が行われ訪問再開が可能となりました。そこで、先方(二林鎮鎮長=日本の町長)の意向を確認し、同鎮が主催するイベント「2022二林好好 愛在蕎麥花開時」に参加すべく、全麵協ホームページで募った参加者7人で渡台しました。

◇ 日程は、12月1日(木)から4日(日)の4日間と最短にしました。往復に各1日を要し、実際の活動が可能なのは、観光1日、イベント参加1日と計2日にすぎませんが、これは、円安で滞在費が割高になっていることでの経費抑制を考えた対応でした。それでも、燃料費の高騰で増高した航空賃を合わせた総費用は、ひとり16万円を超え、いつもの1.5倍となりました。

◇ 2日(金)は、観光です。前回は彰化縣内でしたので、今回は重複を避け嘉義・台南方面の観光としました。日本人技師の八田与一が作った鳥山頭ダムや関連施設、映画「無米樂」で有名になった蕎麥老街、阿里山林業文化を残す30棟以上の建物を復元したいいわゆるヒノキ村などを見て回りました。

◇ この日の午前中、私だけは二林鎮長と二林農会總幹事(日本の農協組合長)を表敬し、会談を行い、今後の蕎麥の振興について協議しました。蔡鎮長は、蕎麥打ち普及の中心となる種講師の組織化と育成、蕎麥道場の創設、段位制度導入の検討について進めることを約し、邱總幹事は、鎮と協力し蕎麥の振興を図るとともに、販売を始めた打粉の価格を抑えて、購入しやすくすると約しました。

◇ この日の午後は、農會の調理室で種講師の一部の方々が蕎麥打ちの練習をするというので、私が指導しました。感動したのは二年間のブランクを感じなかったことです。つまり、彼らは時々集まって練習していたようで、個々の工程は作業の修正が必要なレベルですが、手順に誤りはなかったのです。海外初の段位認定に向けて、明るい材料と言えます。

謹訂於111年12月3日(星期六)上午9:00，  
假香田國小旁田地，舉辦  
二林好好  
愛在蕎麥花開時  
敬請蒞臨指導

農委會水土保持所副所長 李政洋  
彰化縣副縣長 王惠美  
二林鎮鎮長 蔡坤輝  
二林鎮農代夜會主席 洪公崎  
二林鎮農會總幹事 許士平

活動流程

時間	內容
09:30~09:40	開場表演:香田國小-青春加油向前行
09:40~10:00	長官貴賓致詞
10:00~10:10	蕎麥花田控窯趣:開窯典禮
10:10~	日本全麵協職人秀
10:10~12:00	樂團演奏表演
13:00~13:30	草莓姐姐敬樂氣球秀
14:00~14:30	庫瑪魔術表演秀
14:30~15:00	二林圖書館親善小天使熱舞
15:00~	賦歸

◇ 今回の訪問では本格的な交流会は避けましたが、この日の夕食には鎮長だけを招待しました。ところが台湾の常識で、日本語が分かる数人が同行して来ました。翌日のイベントで通訳を担当するそうです。ともあれ、ささやかな宴会でしたが、楽しく進行し、つつがなく交流が深められました。

◇ 3日(土)は、イベント本番の日です。会場は、香田小学校の隣接圃場です。私達は、当初、蕎麦打ちと試食、蕎麦料理教室、蕎麦打ち体験教室の三部作を行う予定でしたが、鎮の追加予算に余裕がなく、後二者は取りやめになりました。なお、校舎内で地元の人達が蕎麦の実入りの中華饅頭を作っていました。

さて、私達のブースには3台の打台がしつらえてあり、二林産の蕎麦粉で製麺しました。終始見物する人が絶えず、メディアの取材も

多数で盛況でした。また、試食のぶっかけ蕎麦の配布は、味も好評で、待機の長い行列ができ、お叱りを受けないかとヒヤヒヤしたぐらいでした。

◇ 私達の参加は大成功で、鎮長も大喜びでした。イベントの開会セレモニーでは、来場していた地元の人達から、入国制限が解除されてすぐに駆け付けた熱意が、大きな拍手で歓迎され、鎮長からは感謝状をいただきました。

この次は、令和5年夏(6月か7月)に再訪する予定です。

